

地域回覧用



小原中部小学校だより



令和8年2月4日

2025 第462号

文責 教頭 釜屋雄一

ぜひとも、学校
ホームページを
ご覧ください⇒



2/3 加湿で元気な学校づくり

校内では今、子どもたち自身の手で「湿度アップ大作戦」が進行中です。インフルエンザが流行する時期を迎え、全校でタオルを濡らして教室に掛け、空気の乾燥を防ぐ取り組みを行っています。

この活動が素敵なのは、ただ「やりましょう」と言われたからではなく、なぜ湿度が大切なのかという理由を聞いて理解した上で、子どもたちが自分たちの意思で毎朝タオルを濡らしに行っていることです。理解して行動する姿に、成長と主体性がしっかりと感じられます。

加湿に加えて、水分補給、手洗い・うがいなど、できる対策を一つ一つていねいに積み重ねながら、みんなで元気に冬を乗り越えていきます。学校全体で協力し合う姿が、とてもほほえましい季節です。

風邪に負けないぞ！



2/3 雪の日の発見！フィールドサインを探してみよう

中部小の価値を実感



このところ小原では雪が降る日が続き、気温も低いため、地面に積もった雪がなかなか溶けません。そんな環境だからこそ、動物たちが残した“フィールドサイン”がとても見つけやすくなっています。

フィールドサインとは、足跡・食べ跡・糞など、動物が残した痕跡から「どんな生き物がここにいたのか」を読み取る手がかりのことです。今回は、雪の上にくっきりと残ったキツネの仲間の足跡を発見しました。

特徴としては、「指が4本」「爪の跡がはっきり見える」「真ん中の2本の指が少し前に出ている」「そしてタヌキや犬と違い、一直線に歩くような足跡になる」こうしたポイントに気付くと、足跡だけでも動物の種類を推理できるようになります。

雪の日ならではの自然観察。小原地区に育つ子どもたちにも、「これは何の動物だろう」と、冬の森の“メッセージ”を感じる場面がきっと訪れることでしょう。

